

平成28年度 第2回総合開発委員会会議録（要旨）

【開催日時・場所】

平成28年12月1日（木） 13：30～ 八雲町役場第1・2会議室

【出席者】 委員：鎌田和弘、坂野俊樹、刀禰清貴、平野百合子、長谷部修、秋松等
阿部政邦、加藤寛喜、長江隆一、日村伸、小笠原英毅、大野博子
吉田久子、小出政彦、竹浜俊一

町長：岩村町長、伊瀬副町長、植杉副町長、田中教育長、各課長

傍聴者：1名

コンサル：2名

【要旨】

- 第2期八雲町総合計画策定について
 - ・ 町民アンケート調査実施結果及び団体アンケート調査実施結果について説明した。
 - ・ 地域懇談会実施結果及び団体等懇談会実施結果について説明し、質疑を受けた。
 - ・ めざすべき将来像及び重点的に推進すべき事項について意見交換を行った。
 - ・ 今後のスケジュールについて説明した。
- 八雲町橋梁長寿命化修繕事業について説明した。
- 落部小学校大規模改修改造事業について説明した。
- 八雲総合病院平成28年度決算見込みについて説明し質疑を受けた。

【内容】

1. 開会
2. 辞令交付
千代隆二委員から日村伸委員へ変更（北洋銀行八雲支店長）
3. 町長挨拶
4. 会長挨拶
5. 第2期八雲町総合計画策定について
 - (1) 町民アンケート調査実施結果及び(2) 団体アンケート調査実施結果について資料1及び資料2について企画振興課企画係より説明。
 - ・ 質疑なし
 - (3) 地域懇談会実施結果及び(4) 団体等懇談会実施結果、(5) 中学生・高校生との懇談会実施結果について
資料3及び資料4、資料5について企画振興課企画係長より説明。

・質疑

(委員)

- ・懇談会の参加者が少ないことやアンケートの回収率が低いことが残念である。より多くの良い意見をいただくため、各地域の代表者から声掛けを行ったり、人が集まりやすい時期に実施する等、次回同じような取り組みを行う際には参加者や回答者を増やす工夫が必要である。今後開始されるコミュニティスクールについても地域と一体となって取り組むことが重要であり、地域の方が参加されやすいものにしていただきたい、これは要望である。

(町)

- ・参加者や回答者の数が少ないことについては、工夫が足りなく反省している。いただいたご意見は次回の計画策定時に十分反映したいと思う。コミュニティスクールについては、事務局としても地域の住民の参加が重要であると考えている。計画においても協働を組み込みたい。

(6) 意見交換（めざすべき将来像、重点的に推進すべき事項について）

資料5-1について企画振興課企画係長より説明。

・質疑

(委員)

- ・このようなアンケート等については、どのように分析して、どのように読み取り、計画の中にどのように落とし込みをするかが重要である。

(委員)

- ・客観的視点・住民の視点・協働の視点については、それぞれアンケートの報告があり、理解できる。行政の視点の施策評価シートなどの結果については、来年2月の総合開発委員会で提示されると考えてよいか。

(町)

- ・施策評価シートについては、現在全課で振り返りを行っている。PDCAの観点からも、こうした評価・検証は非常に重要であると考えている。協働の視点における町民会議については、12月16日に最終の発表が行われる。結果は2月の総合開発委員会でお伝えし、意見をいただきたいと考えている。2月の総合開発委員会では、併せて次期計画の基本構想の骨子についてもお示しし意見をいただき、それを踏まえて、3月の総合開発委員会までに基本構想の素案を作成し、意見をいただく予定である。

(委員)

- ・総合病院に投資をしているが、アンケートの設問に反映できてない。民間に売却すべきという意見もあるが、そうした町民の意見が拾えていないのではないかと。また地域懇談会について、自身が参加した懇談回は参加者が3名で、うち2名が総合開発委員だったので実施についての改善が必要かと思う。

(町)

- ・病院については新幹線のように大きな設問項目は設けていないが、ご意見は自由記述で拾えていると考える。自由記述に全体的に病院の意見が少ないのは、批判もある一

方で、住民も病院の必要性を感じていると分析している。懇談会の参加者が少ないことについては、住民は協働のまちづくりを進める中で、意見が反映されることに疑問があると聞いている。町民に対する総合計画の大切さの訴えが足りないこともある。若者の意見を取り入れることも重要と考えているが、若者同士の取り組みがある一方で、行政との協働は実現していない状況がある。祭り等、個別のイベントでは熱気があり、若者の参加意識がないわけではない。仕掛けが不足していたことを反省し、計画の中では押さえていきたい。

(委員)

- ・多くの住民は意見があっても言えないと思う。若い人の意見を集めるのであれば、若い人の集まりの場でアンケートを実施してはどうか。祭りなどの場面でアンケートを実施すれば、若い人も参加意識を持つのではないか。また、それぞれ分野ごとにわかることわからないことがある。ある程度、その分野の専門家に聞くことも必要もある。

(町)

- ・ご指摘いただいた専門的な意見を伺うという観点から、団体等の懇談会では産業団体が集まっている分野では産業振興と雇用に重点を置き、社会教育団体が多く集まっている分野では教育・子育てに重点を置いた意見を伺うといった工夫はしている。一方で、全体的な課題などを伺うだけでなく、よりポイントを絞って話し合うことも必要かもしれない。次期の総合計画策定の時に検討したい。

(7) 今後のスケジュールについて

資料6について企画振興課企画係長より説明。

- ・質疑

(委員)

- ・めざすべき将来像や重点的な取り組みについての議論は終わったのか。そもそもこの議題は事務局からの案に対して意見を言うのではなく、こちらの考えを一方向的に述べればいいのか、趣旨を伺いたい。

(町)

- ・アンケート等の結果を踏まえ、事業レベルの細かな取り組みについてではなく、次期計画の基本構想の柱となる将来像、重点的な取り組みについて、皆様のお考えを伺いたいというのが趣旨である。

(委員)

- ・先ほどの流れから、アンケート調査等の報告についての意見を述べるのがめざすべき将来像や重点的な取り組みの趣旨だと誤解していた。再度進め方について事務局と協議していただきたい。

休 憩

(6) 意見交換（めざすべき将来像、重点的に推進すべき事項について）

・質疑

(町)

・次期計画となる将来像、重点的な取り組みについて皆様のお考えを伺いたい。

(委員)

・アンケート結果等から若者の遊び場がないという意見が出ているが、その理由を町長に伺いたい。

(町長)

・難しい問題である。大きな施設の誘致等は考えていない。自然を活かした遊び場については評価の声もあり、今後こうした遊び場を活用していきたい。

(委員)

・町として大きな取り組みはできないのか。例えば企業を誘致し、つぶれるのを見せて、八雲でこうした商業施設を運営することの困難さを伝えてはどうだろうか。

(町長)

・難しいと考える。

(委員)

・1月22日に事前に配布された資料には、本日の総合開発委員会の内容は報告のみが記載されており、将来像等の意見をいただきたいとは記載されてはいなかった。良い意見を聞きたいのであれば、事前に伝えるべきである。

(町)

・22日時点ではお伝えしていなかった。説明不足であり、申し訳ない。

(委員)

・アンケートの中で就業場所がないという意見があったが、水産系では求人を出しているが応募がないと聞いている。仕事がないというのは、やりたい仕事がないということではないのか。

(町)

・ハローワークの求人状況を見ると、地域に仕事はある。働く場所はあるが、若い人の望む仕事がないということだと考えられる。特に季節的な労働力等の募集に対してはなかなか応募がない状況である。

(委員)

・大学に求人を出しても応募がない。一次産業で応募がないことはよくわかるが、仕事があることを伝えきれていないことも問題ではないか。地域に若者を引き留めるには、仕事を知ってもらうことも重要だと思う。

(委員)

・丘の駅も求人を出しているが応募がない。若者の求める職がない、選んでいるということだと考えられる。そのあたり、突き詰めたアンケートなどで、若者がどういう仕事を望んでいるのかを知りたい。

(委員)

・こうした雇用の問題は昔からある。ある分野は需要があり、ある分野には需要がない

といった業種による偏りがある。需要と供給のバランスが成り立っていない。

(委員)

- ・雇用のミスマッチはよくいわれているが、働く側からは安定性が求められる。季節雇用は不安定であり、生涯雇用は難しいとしても安定的な雇用、より良い雇用条件を整備しないとミスマッチは解消されない。医者でさえ労働条件を重視している。話は変わるが、14年後に新幹線が来るが、それまでの期間をどう見るかも重要だと考える。総合計画は今後10年間の計画であり、10年間の議論が必要である。例えば新幹線が来るまでの14年間は在来線を利用することになるので、在来線を中心とした交通体系を検討しなくてはならない。

(委員)

- ・若い人が町から出るのは当たり前である。教育は子どもたちに夢を与えるものであり、町にあるものから選ばせるような教育ではいけない、外に出て改めて八雲の良さに気付くことが重要である。外に出ていく子どもたちも応援すべきで、外で経験を積んで戻ってきた若者は八雲にとっても戦力になる。大事なのは、一旦外に出たとしても戻ってくるか、外から入ってくるか。若者の応援体制や優秀な人材が戻ってくるような取り組みを期待したい。

(町)

- ・ご指摘いただいたような想いで教育に携わっている。八雲に留まってくれとは考えていない。子どもたちには夢を持って自分の想いを実現してほしい。国もそのような方向性で教育を進めている。『ふるさと』という曲があるが、その中の3番の歌詞で「志を果たして、いつの日にか帰らん」を「志を果たしに、ふるさとへ戻ろう」に変えて合唱している。最終的には地元で郷土愛を持ってがんばろうというような教育を進めている。

(委員)

- ・外に出た若者がその経験を踏まえて、町に戻って起業ができるというような支援制度があれば、子どもも魅力を感じるのではないか。

(委員)

- ・噴火湾パノラマパークは67万人程度の入れ込み客数があるが、寄っているだけで市街地には下りない。新幹線ができる前に、市街地に下りてきてもらえるような手法が必要ではないか。通年でなくても5～8月のお客が多い時期に、八雲を見てもらう仕組みを作る必要がある。高速から降りないのであれば、新幹線でも八雲には下りないのではないか。行政も民間も力を入れて考えるべきである。

(委員)

- ・パノラマには67万人の入れ込み客があり、今年度は75万人に達すると見込まれるが、ご指摘のとおり目的地に行くついでに寄っているだけで市街地には下りていない。同様の意見はあるが、目的地にならないと人は来ない。ハーベスターのように八雲に来ると食べられるものが、町内に何か面白いものを作ることが必要と考える。新幹線が開業する前に取組みを行うことと行わないのでは開業してから差が出るので、今回の総合計画にも盛り込みたい。一方で行政だけの取組みでは成果を上げることは困難

であり、民間と協力し、立ち寄りたいたいと思えるような町にしていきたい。

(委員)

- ・立ち寄ってもらうにはオリジナリティがないと難しい。北里大学の牛を利用していたくなど、他にはない唯一のものを増やしていくことが重要だと思う。

(委員)

- ・徳川慶勝の歴史を八雲の軸にしてはどうか。徳川の歴史は北海道では八雲だけではないか。

(委員)

- ・まちづくりという側面から見れば非常に良い提案。八雲の発展には八雲と言えばコレというものが、必要である。町の名前を聞けばイメージできるものがない。これまで作り上げてこなかったため、これからの取組は大事だと思う。一方で、まちづくりとまちおこしは分けて考える必要がある。徳川慶勝の歴史があるというだけでは、八雲に来る理由にはならないかもしれない。歴史の関連では伊達市が有名だが、それがあってもその町には行かないのではないか。町おこしは一つのツールだけでは厳しい。景色の良さ、夕日や牛乳とか、多様な素材で八雲のイメージを押し上げていく必要があるのではなか。

(委員)

- ・徳川農場の再現ができれば、今ある酪農と併せることもできる。

(委員)

- ・多様な要素を組み合わせるという考え方もある。八雲にはなんでもある、いろいろ良いものがありすぎるので軸が定まらないのではないか。要素を組み合わせる際も八雲の歴史、そうしたストーリーが軸になると考える。

(委員)

- ・PR不足はある。東京の人にももっとPRしてほしい。

(委員)

- ・徳川慶勝の歴史のPRも不足している。

(委員)

- ・目的をどこに置くかが重要である。まちづくりは徳川慶勝の歴史を軸にするのもよい。しかし、まちおこしのツールとしては難しいのではないか。高速道路や新幹線を移動している方は時間的な制約があるので、相当な仕掛けが必要である。

(委員)

- ・新幹線の開通は良い悪いといった多様な意見がある中で、熊石地域の方からは、あまりメリットがないという意見が多い。熊石地域に対しては、どういったメリットを想定しているのか伺いたい。また、新幹線開通に伴って何か取り組むことはあるか。

(町)

- ・新幹線に関わらず、在来線を利用する場合でも熊石地域からの道路のカーブ等の改良の要望が非常に多い。道路の改良を国に要望していくことが一番必要だと思う。一方で、相手が国であり、国は費用対効果を問うのでそうした観点では、改良要望をしても順位が低い。線形改良も併せて要望しており、そちらは予算が付いたため、順次

カーブが解消される。また、自家用車だけでなく、バスの利便性、公共交通機関を日本海側とどう結ぶか、そうした利便性も課題と認識している。

(委員)

- ・落部、熊石を含めて八雲町と認識している。こうした会議ではどうしても八雲地域に集中しているように感じる。分けて説明頂くなど工夫が必要ではなか。

(委員)

- ・自身は商工会の会長だが、277号線の期成会を担っている。道路を安全に通すため、商工会としても期成会としても函館開発局・札幌開発局へ年2回要望を行っている。交通が良くなると、八雲と熊石の交流も進まないとは認識している。

(委員)

- ・熊石の副町長の意見もうかがいたい。

(町)

- ・新幹線が来た場合の熊石地域の活性化だが、熊石は一次産業が衰退し、専業農家も減少している。函館から日本海経由で熊石から八雲へ行くというルートも利用されている。漁業で発展したい地域だが、それだけでは飯が食えない状況である。熊石の水産物を熊石に来たら食べられるとか、そうした場所を作るなど、検討をしている。熊石の自然などを活かして振興をしていきたい。

(委員)

- ・魅力あるまちづくりは、水産物でもいいし、魅力あるまちをみんなで考えてやっていきたい。

6. 報告事項

(1) 当面する町の主要施策・事業～平成29年度主要事業の構想について

①八雲町橋梁長寿命化修繕事業について（建設課）

資料7について建設課長より説明。

- ・質疑なし

②落部小学校大規模改造事業について（学校教育課）

資料8について学校教育課長より説明。

- ・質疑なし

(2) 八雲総合病院平成28年度決算見込みについて

資料9について病院管理課長より説明。

- ・質疑

(委員)

- ・八雲町総合病院については、訴訟やあっせん等の4件の問題を抱えている。この問題の内容や進捗状況、推移の説明をお願いしたい。

(町)

- ・1件目については、函館地裁で裁判が行われている。現在進められている状況は要因の確認資料が関係機関から提出されていない状況であり、裁判所もこの資料が提出さ

れた後に判断を行うため、動きがない状況である。

- ・ 2件目については、カテーテル検査で右手の麻痺を起した案件だが、この方は順調に回復しており、今年の12月末に外来の診療を終える予定である。1月以降に医療保障や賠償などの話し合いの場を設ける予定である。
- ・ 3件目については、長万部の患者が大動脈解離で亡くなられ、遺族の方から、東京弁護士会をとおして和解を前提にした「あっせん（調停）」を進められている。10月30日にあっせんが行われ和解した。
- ・ 4件目については、小児科で点滴の針から液が漏れ炎症を起こした案件である。患者が0歳児であり、後遺症の判断は学校に入るまで影響を見ないといけないので、賠償についてはその段階で判断する。入院にかかった費用についてはお支払いしている。

(委員)

- ・ こうした事案について、訴訟については知っている人がいるが、他の3件については知らない人が多い。早めに解決し、問題の無い状況で総合病院のグランドオープン迎えていただきたい。訴訟の件も早めに和解をし、町民に安心してもらうべきである。

7. その他

8. 閉会